

6月6日は補聴器の日

知ってほしい！「ウイルスから守ってくれるマスクがコミュニケーションの壁に」

福岡市を拠点に活動を行う難聴の子を持つ家族会そらいろ（福岡市、会長：岩尾至和、以下「そらいろ」）は、「わからないことが多いと言われている難聴児の子育て」をめぐる課題解決に向けて活動しております。6月6日の補聴器の日（※1）に際し、聴覚障がい者に関する理解促進活動の一環として「コロナウイルス発出により難聴児が抱える課題」をお知らせいたします。

【本件のポイント】

- 新型コロナウイルスの感染防止に欠かせないマスクが、意志疎通の壁になっている現状。言葉を読み取る手段の一つである口元が見えなくなることにより、情報が理解しづらくなっている。
- 全難聴（※2）は新型コロナウイルスに関する要望を発表。今後の難聴児の環境整備を考え、整えていく必要がある。

そらいろは「難聴の子どもが、社会でうまくコミュニケーションをとれるように、また、難聴の子どもがいる家族が、不安を取り除いて、安心して温かい家族関係を作れるように」を目的に掲げ、定例会を中心とした活動を展開しております。新型コロナウイルスの発生により、難聴児の生活にも大きな影響が出ています。特別支援学校や療育施設などの休校、ネット教材は字幕も手話も殆どないため、学ぶ場が激減。現在段階的に再開しているものの、「マスク」の存在がコミュニケーションの壁になっています。会話を読み取る上で表情や唇の動きなどを役立てているのですが、感染防止に必須のマスクが「バリア」になっているのです。

全難聴は3月末、新型コロナウイルスに関する要望（声明）を発表。その一つに「テレワーク、リモート学習などでのインターネット利用における音声情報への字幕付与の推進」が挙げられるなど、早急な対応が求められました。そのような中、音声認識アプリ「UDトーク」を導入する官公庁・地方自治体・教育機関も増加傾向にあります。コロナ禍以前から導入されている山形県立山形聾学校では、校外学習におけるUDトークとデジタル無線補聴システムの活用により、音声認識、教育活動、音声情報の文字化（会話の見える化）を実現（※3）。「話し手が話す音声情報を児童が正確に受け取るには限界があった」という課題解決の一手として、成果を挙げています。

本状況を踏まえ、次回定例会（※4）は「コロナ禍における難聴児の環境整備を考える」をテーマに設定。コロナウイルスについての正しい知識、マスク社会への対応策などを探ってまいります。

当家族会は今後も定例会などを通じて、難聴児の子育てをしやすい環境づくりや難聴理解を広げる活動を展開してまいります。

（※1）1999年に一般社団法人補聴器工業会並びに一般社団法人日本補聴器販売店協会が制定した記念日で、6の形を向かい合わせにする耳の形に見えることが由来

（※2）一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 HP より <https://www.zennancho.or.jp/2882/>

（※3）https://udtalk.jp/edu_report_05/

（※4）2020年6月21日（日）の13:30～15:30、福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）にて実施予定

【本件に関するお問い合わせ先】

難聴の子を持つ家族会 そらいろ <https://sorairofukuoka.jimdofree.com/>

担当：岩尾（いわお） e-mail：yukikazu_iw203@blue.plala.or.jp